

## 浜の活力再生プラン (第2期)

### 1 地域水産業再生委員会 ID:1101006

組織名	別海地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 福原正純

再生委員会の構成員	別海漁業協同組合、別海町
オブザーバー	北海道根室振興局

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の範囲：北海道野付郡別海町</li> <li>・ 対象漁業種類            組合員数    91名</li> </ul> <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: right;">対象漁業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ サケ定置網漁業</td> <td style="text-align: right;">87名</td> </tr> <tr> <td>・ ホタテガイ漁業</td> <td style="text-align: right;">91名</td> </tr> <tr> <td>・ ホッキガイ漁業</td> <td style="text-align: right;">46名</td> </tr> <tr> <td>・ コマイ、カレイ、ハタハタ、キュウリウオ底建網漁業</td> <td style="text-align: right;">60名</td> </tr> <tr> <td>・ コマイ、カレイ、キュウリウオ、マス小型定置網漁業</td> <td style="text-align: right;">87名</td> </tr> <tr> <td>・ アサリ漁業</td> <td style="text-align: right;">91名</td> </tr> <tr> <td>・ チカ、ワカサギ、ニシン待網漁業</td> <td style="text-align: right;">70名</td> </tr> <tr> <td>・ シジミ漁業</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td>・ ワカサギ待網漁業（内水面）</td> <td style="text-align: right;">50名</td> </tr> </tbody> </table>		対象漁業者数	・ サケ定置網漁業	87名	・ ホタテガイ漁業	91名	・ ホッキガイ漁業	46名	・ コマイ、カレイ、ハタハタ、キュウリウオ底建網漁業	60名	・ コマイ、カレイ、キュウリウオ、マス小型定置網漁業	87名	・ アサリ漁業	91名	・ チカ、ワカサギ、ニシン待網漁業	70名	・ シジミ漁業	3名	・ ワカサギ待網漁業（内水面）	50名
	対象漁業者数																				
・ サケ定置網漁業	87名																				
・ ホタテガイ漁業	91名																				
・ ホッキガイ漁業	46名																				
・ コマイ、カレイ、ハタハタ、キュウリウオ底建網漁業	60名																				
・ コマイ、カレイ、キュウリウオ、マス小型定置網漁業	87名																				
・ アサリ漁業	91名																				
・ チカ、ワカサギ、ニシン待網漁業	70名																				
・ シジミ漁業	3名																				
・ ワカサギ待網漁業（内水面）	50名																				

### 2 地域の現状

#### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当再生委員会の位置する別海町は、北海道の東側のオホーツク海に面し、面積1,320km<sup>2</sup>で山坂のほとんどない広大な大地に約15千人の住民とその6倍強の牛11万頭が暮らしており、酪農と水産業を基幹産業とする町です。農業生産額は年間450億円を超え、日本一の酪農郷です。海岸線約38kmには2つの漁協があり、サケ定置網漁業、ホタテ漁業の沿岸漁業を主要とし、平成29年は約28千トン、97億円の水揚げとなっています。当地区は91名の組合員で10kmの海岸線と風蓮湖で漁業を営み、同年の水揚げは4.6千トン、16億7千万円の水揚げとなり、計画を上回りました。その大きな要因は、安定した生産を続けるホタテ漁業において、道内生産量の減産、輸出増加などの外的要因により、過去に例のない高価格で推移し、基幹漁業であるサケ定置網漁業の極度の不振を補うまでの水揚げとなりました。しかし、大型低気圧・高潮等の被害、燃油・漁業資材の高止まりにより漁業経費は嵩み、漁家経営は厳しい状況となっております。

また、ニシン、アサリ等が生産される風蓮湖は、シルト状の堆積物が湖底を覆い、底質の悪化によるシジミ資源の枯渇、ヨシ原、アマモ場の喪失など魚介類の生息環境の悪化は顕著であり、サケをはじめとする漁業資源の回復と漁場環境改善が急務であります。

さらに、当地区において、組合員の平均年齢は57歳と高齢化傾向で漁業就業者が年々減少しており、担い手不足が深刻化しています。

(2) その他の関連する現状等

漁業経営安定対策として、漁獲共済、積立ぶらす、漁業経営セーフティーネット構築事業に継続加入し、また、省エネ機器等の導入、漁船リース事業による支援により、漁業コスト削減と担い手の確保に取り組んでいます。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1. 水産資源の維持増大と漁場環境の改善と保全

- ・低迷するサケ資源の回復のため、地場の再生産用親魚を確保し、放流手法の改善及び放流河川  
の環境保全によりサケ稚魚の健苗放流を行う。また、適期放流のため、二次飼育施設の補修及  
び拡充を行う。
- ・ホタテ、ホッキ、アサリ資源の維持増大のため、ホタテ稚貝放流敵地調査及び捕食生物の駆除、  
殻貝等の堆積物除去を行う。  
また、ホタテ稚貝は、リスク分散のため地域内からも確保し、運搬等のコスト削減に取り組む。
- ・アサリ資源の維持増大のため、増殖場造成と漁場耕耘を行う。
- ・ニシン、シジミの人口種苗生産から放流を行うとともに、ニシンの産卵場確保のためアマモの  
保全、振り子の保護、そして、シジミ生息漁場回復のためヨシ原の造成と堆積物の除去を行う。
- ・ホッキ、アサリ、シジミ資源の漁獲ノルマの設定により資源維持、増大を図る。

## 2. 魚価の安定と向上

- ・鮮度保持対策として、ホタテ、ホッキガイ、アサリ等の二枚貝は、活力低下を防ぐため、屋根付き岸壁での荷揚げや冬期間は凍結防止シートを使用する。  
また、サケは起し船への氷の積載及び出荷タンクへの氷投入と滅菌海水を使用して出荷する。
- ・ホッキガイ、アサリ、シジミの畜養販売とサケ、ニシンの消費者ニーズに合った新製品を開発する。
- ・産地直販、販売促進イベントにより消費拡大を図る。

## 3. 漁業経営の基盤強化

- ・漁獲共済、積立ふらす、漁業経営セーフティーネット構築事業に継続加入する。
- ・省エネ機器の導入、減速航行、船底清掃により燃油消費量の削減を図る。
- ・漁船リース事業の活用による漁船の更新により収益性向上を推進する。
- ・サケ定置網、ホタテ、ホッキ漁業の船団操業における効率的な操業体制を確立する。

## 4. 担い手の確保と育成

- ・必要とする知識と技術の習得に関する支援に取り組む。
- ・漁船リース事業、機器等導入事業の活用を推進し、操業環境の整備等による収益向上の支援を行い、中核的担い手の確保と育成を行う。

### (3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ・資源管理計画に基づく、サケ定置網、ホタテ漁業の休漁期間の設定
- ・共同漁業権行使要領に基づく、操業期間、網目等の規制措置
- ・北海道漁業調整規則に基づく、体長等及び禁止期間の措置
- ・根室海区漁業調整委員会のニシン採捕禁止区域、期間の指示

(4) 具体的な取組内容

1年目（平成31年度） 所得0.9%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1. 水産資源の維持増大と漁場環境の改善と保全</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アサリ増殖場の造成（1 ha）を実施する。また、アマモの繁茂により機能低下がみられる増殖場の耕耘とアマモの除去を行う。</li><li>・ホタテ、ホッキ、アサリ漁場周辺に繁殖した捕食生物の駆除と殻貝等の堆積物の除去及びホタテ種苗放流敵地調査を行う。</li><li>・シジミ漁場の回復と漁場環境改善を目的としてヨシ原の試験的造成を行う。</li><li>・サケ稚魚の捕食生物の駆除、放流手法の改善とサケ再生産用親魚確保に取り組む。</li><li>・ニシン、シジミの人口種苗生産と放流、ニシン振り子の保護を行う。</li><li>・ホッキ、アサリ、シジミの漁獲ノルマの設定を行う。</li></ul> <p>2. 魚価の安定と向上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホタテは屋根付き岸壁での荷揚げ、サケ定置は船及び出荷タンクに氷投入し、滅菌海水を使用する。</li><li>・ホタテ、ホッキガイの冬期間操業時に凍結防止シートを使用する。</li><li>・ホッキガイ、アサリ、シジミの畜養販売とサケ、ニシンの新製品開発及び産地直販と販売イベントにより消費拡大を図る。</li><li>・サケ回帰率の回復・向上のため、飼育、放流方法の改良を行う。</li><li>・ホタテ資源の維持・増大のため、地域内からの種苗確保によるリスク分散と運搬コストの削減を行う。</li></ul>
漁業コスト削減のための取組	<p>3. 漁業経営の基盤強化 及び 4. 担い手の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・漁業経営セーフティーネット構築事業の継続加入を推進する。</li><li>・サケ定置網、ホタテ、ホッキガイ漁業の42隻の漁船の減速航行と船底清掃の省エネ活動を行い、燃油消費量の削減を図る。</li><li>・サケ定置網漁業において、低調な漁獲量の場合、出漁日を定め、出漁日数の抑制を図り、価格の維持と燃油消費量の削減を図る。</li><li>・待網、底建網、サケ定置網、ホタテ漁業の休漁期間を設定する。また、ホッキガイ、アサリ漁業における一日の漁獲ノルマを増量し、出漁日数を減らすことで、漁業経費の削減を図る。</li><li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁船リース事業の活用を推進し、収益向上を図る。</li></ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業経費より0.7%の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"><li>・水産生産基盤整備事業（国）</li><li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li><li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li><li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li><li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li><li>・別海町沿岸漁業振興対策事業（町）</li><li>・北方領土隣接地域振興等事業（道）</li><li>・地域的回遊性魚種栽培漁業振興事業（栽培公社）</li></ul>

2年目（平成32年度） 所得0.9%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1. 水産資源の維持増大と漁場環境の改善と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリ増殖場の造成（1 ha）の実施と昨年度造成した増殖場の早期活用を目的とした種苗放流を行う。また、アマモの繁茂により機能低下がみられる増殖場の耕耘とアマモ除去を行う。</li> <li>・ホタテ、ホッキ、アサリ漁場周辺に繁殖した捕食生物の駆除と殻貝等の堆積物の除去及びホタテ種苗放流敵地調査を行う。</li> <li>・シジミ漁場の回復と漁場環境改善を目的としてヨシ原の試験的造成を行う。</li> <li>・サケ稚魚の捕食生物の駆除、放流手法の改善とサケ再生産用親魚確保に取り組む。</li> <li>・ニシン、シジミの人口種苗生産と放流、ニシン振り子の保護を行う。</li> <li>・ホッキ、アサリ、シジミの漁獲ノルマの設定を行う。</li> </ul> <p>2. 魚価の安定と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタテは屋根付き岸壁での荷揚げ、サケ定置は船及び出荷タンクに氷投入し、滅菌海水を使用する。</li> <li>・ホタテ、ホッキガイの冬期間操業時に凍結防止シートを使用する。</li> <li>・ホッキガイ、アサリ、シジミの畜養販売とサケ、ニシンの新製品開発及び産地直販と販売イベントにより消費拡大を図る。</li> <li>・サケ回帰率の回復・向上のため、飼育、放流方法の改良を行う。</li> <li>・ホタテ資源の維持・増大のため、地域内からの種苗確保によるリスク分散と運搬コストの削減を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>3. 漁業経営の基盤強化 及び 4. 担い手の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業の継続加入を推進する。</li> <li>・サケ定置網、ホタテ、ホッキガイ漁業の42隻の漁船の減速航行と船底清掃の省エネ活動を行い、燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・サケ定置網漁業において、低調な漁獲量の場合、出漁日を定め、出漁日数の抑制を図り、価格の維持と燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・待網、底建網、サケ定置網、ホタテ漁業の休漁期間を設定する。また、ホッキガイ、アサリ漁業における一日の漁獲ノルマを増量し、出漁日数を減らすことで漁業経費の削減を図る。</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁船リース事業の活用を推進し、収益向上を図る。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業経費より0.7%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生産基盤整備事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・別海町沿岸漁業振興対策事業（町）</li> <li>・北方領土隣接地域振興等事業（道）</li> <li>・地域的回遊性魚種栽培漁業振興事業（栽培公社）</li> </ul>

3年目（平成33年度） 所得6. 2%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1. 水産資源の維持増大と漁場環境の改善と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度造成したアサリ増殖場の早期活用を目的とした種苗放流を行う。また、アマモの繁茂により機能低下がみられる増殖場の耕耘とアマモ除去を行う。</li> <li>・ホタテ、ホッキ、アサリ漁場周辺に繁殖した捕食生物の駆除と殻貝等の堆積物の除去及びホタテ種苗放流敵地調査を行う。</li> <li>・シジミ漁場の回復と漁場環境改善を目的としてヨシ原の試験的造成を行う。</li> <li>・サケ稚魚の捕食生物の駆除、放流手法の改善とサケ再生産用親魚確保に取り組む。</li> <li>・ニシン、シジミの人口種苗生産と放流、ニシン振り子の保護を行う。</li> <li>・ホッキ、アサリ、シジミの漁獲ノルマの設定を行う。</li> </ul> <p>2. 魚価の安定と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタテは屋根付き岸壁での荷揚げ、サケ定置は船及び出荷タンクに氷投入し、滅菌海水を使用する。</li> <li>・ホタテ、ホッキガイの冬期間操業時に凍結防止シートを使用する。</li> <li>・ホッキガイ、アサリ、シジミの畜養販売とサケ、ニシンの新製品開発及び産地直販と販売イベントにより消費拡大を図る。</li> <li>・サケ回帰率の回復・向上のため、飼育、放流方法の改良を行う。</li> <li>・ホタテ資源の維持・増大のため、地域内からの種苗確保によるリスク分散と運搬コストの削減を行う。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業収入より2.4%の収入向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>3. 漁業経営の基盤強化 及び 4. 担い手の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業の継続加入を推進する。</li> <li>・サケ定置網、ホタテ、ホッキガイ漁業の42隻の漁船の減速航行と船底清掃の省エネ活動を行い、燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・サケ定置網漁業において、低調な漁獲量の場合、出漁日を定め、出漁日数の抑制を図り、価格の維持と燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・待網、底建網、サケ定置網、ホタテ漁業の休漁期間を設定する。また、ホッキガイ、アサリ漁業における一日の漁獲ノルマを増量し、出漁日数を減らすことで漁業経費の削減を図る。</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁船リース事業の活用を推進し、収益向上を図る。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業経費より0.7%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生産基盤整備事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・別海町沿岸漁業振興対策事業（町）</li> <li>・北方領土隣接地域振興等事業（道）</li> <li>・地域的回遊性魚種栽培漁業振興事業（栽培公社）</li> </ul>

4年目（平成34年度） 所得8.6%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1. 水産資源の維持増大と漁場環境の改善と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリ増殖場の有効活用を目的とした種苗放流を行う。また、アマモの繁殖により機能低下がみられる増殖場の耕耘とアマモ除去を行う。</li> <li>・ホタテ、ホッキ、アサリ漁場周辺に繁殖した捕食生物の駆除と殻貝等の堆積物の除去及びホタテ種苗放流敵地調査を行う。</li> <li>・シジミ漁場の回復と漁場環境改善を目的としてヨシ原の試験的造成を行う。</li> <li>・サケ稚魚の捕食生物の駆除、放流手法の改善とサケ再生産用親魚確保に取り組む。</li> <li>・ニシン、シジミの人口種苗生産と放流、ニシン振り子の保護を行う。</li> <li>・ホッキ、アサリ、シジミの漁獲ノルマの設定を行う。</li> </ul> <p>2. 魚価の安定と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタテは屋根付き岸壁での荷揚げ、サケ定置は船及び出荷タンクに氷投入し、滅菌海水を使用する。</li> <li>・ホタテ、ホッキガイの冬期間操業時に凍結防止シートを使用する。</li> <li>・ホッキガイ、アサリ、シジミの畜養販売とサケ、ニシンの新製品開発及び産地直販と販売イベントにより消費拡大を図る。</li> <li>・サケ回帰率の回復・向上のため、飼育、放流方法の改良を行う。</li> <li>・ホタテ資源の維持・増大のため、地域内からの種苗確保によるリスク分散と運搬コストの削減を行う。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業収入より3.4%の収入向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>3. 漁業経営の基盤強化 及び 4. 担い手の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業の継続加入を推進する。</li> <li>・サケ定置網、ホタテ、ホッキガイ漁業の42隻の漁船の減速航行と船底清掃の省エネ活動を行い、燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・サケ定置網漁業において、低調な漁獲量の場合、出漁日を定め、出漁日数の抑制を図り、価格の維持と燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・待網、底建網、サケ定置網、ホタテ漁業の休漁期間を設定する。また、ホッキガイ、アサリ漁業における一日の漁獲ノルマを増量し、出漁日数を減らすことで漁業経費の削減を図る。</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁船リース事業の活用を推進し、収益向上を図る。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業経費より0.7%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生産基盤整備事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・別海町沿岸漁業振興対策事業（町）</li> <li>・北方領土隣接地域振興等事業（道）</li> <li>・地域的回遊性魚種栽培漁業振興事業（栽培公社）</li> </ul>

5年目（平成35年度） 所得11.3%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1. 水産資源の維持増大と漁場環境の改善と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリ増殖場の有効活用を目的とした種苗放流を行う。また、アマモの繁殖により機能低下がみられる増殖場の耕耘とアマモ除去を行う。</li> <li>・ホタテ、ホッキ、アサリ漁場周辺に繁殖した捕食生物の駆除と殻貝等の堆積物の除去及びホタテ種苗放流敵地調査を行う。</li> <li>・シジミ漁場の回復と漁場環境改善を目的としてヨシ原の試験的造成を行う。</li> <li>・サケ稚魚の捕食生物の駆除、放流手法の改善とサケ再生産用親魚確保に取り組む。</li> <li>・ニシン、シジミの人口種苗生産と放流、ニシン振り子の保護を行う。</li> <li>・ホッキ、アサリ、シジミの漁獲ノルマの設定を行う。</li> </ul> <p>2. 魚価の安定と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタテは屋根付き岸壁での荷揚げ、サケ定置は船及び出荷タンクに氷投入し、滅菌海水を使用する。</li> <li>・ホタテ、ホッキガイの冬期間操業時に凍結防止シートを使用する。</li> <li>・ホッキガイ、アサリ、シジミの畜養販売とサケ、ニシンの新製品開発及び産地直販と販売イベントにより消費拡大を図る。</li> <li>・サケ回帰率の回復・向上のため、飼育、放流方法の改良を行う。</li> <li>・ホタテ資源の維持・増大のため、地域内からの種苗確保によるリスク分散と運搬コストの削減を行う。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業収入より4.7%の収入向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>3. 漁業経営の基盤強化 及び 4. 担い手の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業の継続加入を推進する。</li> <li>・サケ定置網、ホタテ、ホッキガイ漁業の42隻の漁船の減速航行と船底清掃の省エネ活動を行い、燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・サケ定置網漁業において、低調な漁獲量の場合、出漁日を定め、出漁日数の抑制を図り、価格の維持と燃油消費量の削減を図る。</li> <li>・待網、底建網、サケ定置網、ホタテ漁業の休漁期間を設定する。また、ホッキガイ、アサリ漁業における一日の漁獲ノルマを増量し、出漁日数を減らすことで漁業経費の削減を図る。</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業、漁船リース事業の活用を推進し、収益向上を図る。</li> </ul> <p>これらの取組により、基準年の漁業経費より0.7%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水産生産基盤整備事業（国）</li> <li>・水産多面的機能発揮対策事業（国）</li> <li>・漁業経営セーフティーネット構築事業（国）</li> <li>・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</li> <li>・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</li> <li>・別海町沿岸漁業振興対策事業（町）</li> <li>・北方領土隣接地域振興等事業（道）</li> <li>・地域的回遊性魚種栽培漁業振興事業（栽培公社）</li> </ul>

(5) 関係機関との連携

○サケ資源の回復・安定
・国立研究開発法人 水産研究・教育機構 北海道区水産研究所さけます生産技術部
・地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 道東センター
・一般社団法人 根室管内さけ・ます増殖事業協会
○ホタテ、ホッキガイ、アサリ、ニシンの資源維持増大と漁場改善と保全
・地方独立行政法人 北海道立総合研究機構水産研究本部 釧路水産試験場
・根室地区水産技術普及指導所
○シジミ資源回復と漁場改善
・風蓮湖漁場環境改善検討会
・根室地区水産技術普及指導所
○魚価の安定と向上
・北海道漁業協同組合連合会
・別海町

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成29年度：漁業所得
	目標年	平成35年度：漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

アサリ漁獲量の増産	基準年	平成29年度：
	目標年	平成35年度：

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産生産基盤整備事業	アサリ増殖場を造成し、生産の増大を図る。
水産多面的機能発揮対策事業	ホタテ、ホッキガイ、アサリ漁場周辺の有用資源捕食生物の駆除と堆積物の除去により、資源の維持増大を図る。 ヨシ原の造成により、水質浄化機能が高められ、環境の改善を図る。 モニタリングによる漁場環境の把握とその結果に基づき対策を講じ資源の維持増大を図る。
漁業セーフティネット構築事業	燃油価格の上昇時に国からの補填金の交付となり、漁家経営の安定を図る。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	省エネ機器を導入し、燃油消費量の削減と漁業コストの軽減を図る。
競争力強化漁船導入緊急支援事業(漁船リース事業)	漁船更新により、漁業コストの軽減と収益性向上を図る。
別海町沿岸漁業振興対策事業	シジミ人工種苗生産から放流により、資源の維持増大を図る。 ヨシ原の造成により、水質浄化機能が高められ、環境の改善を図る。
北方領土隣接地域振興等事業	アサリ種苗の種苗放流により、未利用漁場の活用と生産の向上を図る。
地域的回遊性魚種栽培漁業振興事業	ニシン人工種苗生産から放流により、資源の維持増大を図る。